

第57回「全国漆器展」

～ 審査講評 ～

開催日時： 令和4年9月15日(木) 15:00～18:25

(審査会)

会場： 一般財団法人伝統的工芸品産業振興協会 大会議室

〒107-0052 東京都港区赤坂 8-1-22-2F

出品産地： 津軽塗(青森県)

川連漆器(秋田県)

(10産地) 会津塗(福島県)

木曾漆器(長野県)

高岡漆器(富山県)

輪島塗(石川県)

山中漆器(石川県)

越前漆器(福井県)

紀州漆器(和歌山県)

香川漆器(香川県)

賞の種別：

●団体賞： 桂宮賞、内閣総理大臣賞、日本経済新聞社賞

●個人賞： -産業工芸品部門-

-美術工芸品部門-

経済産業大臣賞

農林水産大臣賞

経済産業省製造産業局長賞

林野庁長官賞

日本経済新聞社賞

家庭画報賞

(株)商工組合中央金庫社長賞

(一財)伝統的工芸品産業振興協会賞

(公財)日本デザイン振興会賞

(一社)日本百貨店協会会長賞

(一財)生活用品振興センター理事長賞

全国漆業連合会会長賞

(NPO)食空間コーディネーター協会賞

(一社)日本漆工協会理事長賞

日本漆器協同組合連合会理事長賞

審査員特別賞

審査員特別賞

奨励賞

奨励賞



§ 審査総評 §

各漆器産地から令和の今を象徴する力作が集まりました。審査会に先立ち、私と事務局長とで準備会を行いました。二つの部門に分けてノミネートされた作品を産業工芸品部門と美術工芸品部門のどちらが審査概要に合致するかを確かめて、多少の移動をいたしました。もちろん当該の産地にすぐに連絡をして、了解を得てからのことです。

今回は両部門とも新しい観点からの提案性にある作品が目につきました。審査会には幅広く各界で活躍をする方々に集まっていただき、産地名や出品者名などの個人情報伏せの中で、東京藝術大学准教授の青木、鈴木両部門長に進行をお任せして始めました。

最初は丁寧に作品を見て回り、渡された書類に各自 10 点選び、細かな項目に点数を入れることから始めました。作品を手に持ち、対話をしながら一切の私語は禁止し、採点をしていました。事務局で各審査員の投票をまとめて得点の高い上位 18 作品ほどを選定し、その中から部門長の司会進行で、今度は話し合いの中で受賞作が決められていきます。勿論大きく得点が離れている時はその得点のままですが、ほぼ同点の場合は、さまざまな視点からの意見交換で最終決定をいたします。

今回も審査員 14 人中女性が 5 人であり、また年齢もお立場も多岐にわたることで、なるほどという結果になりました。令和に入り、新しい動きと伝統に根差した中で、未来に向けた作品が見えてきたことは実に喜ばしいことと思います。

漆の作品は作り手から手離れした時が完成ではありません。使われながら漆器は美を増していくものです。今回出品された作品が令和 4 年を代表する漆器として、100 年先まで使われながら伝わり、真の意味で美の完成をして欲しいと思っています。

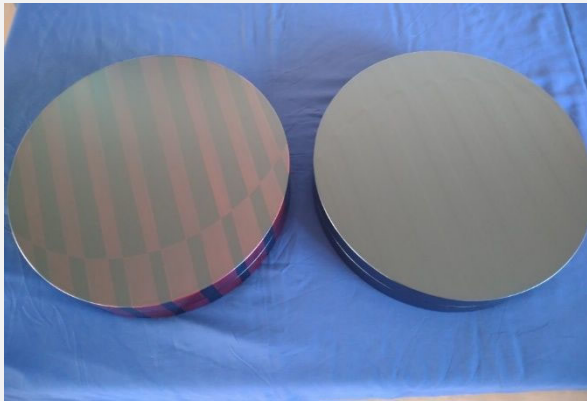


第 57 回全国漆器展
審査員長 三田村有純 記

§ 目次 §

§ 審査総評	1
§ 目次	2
§ 審査講評	
-美術工芸品部門-	
農林水産大臣賞、林野庁長官賞	4
家庭画報賞、(一財)伝統的工芸品産業振興協会賞	4
(一社)日本百貨店協会会長賞、全国漆業連合会会長賞	5
(一社)日本漆工協会理事長賞、審査員特別賞	5
奨励賞	6
-産業工芸品部門-	
経済産業大臣賞、経済産業省製造産業局長賞	8
日本経済新聞社賞、(株)商工組合中央金庫社長賞	8
(公財)日本デザイン振興会賞、(一財)生活用品振興センター理事長賞	9
(特非)食空間コーディネーター協会賞、日本漆器協同組合連合会理事長賞	9
審査員特別賞、奨励賞	10
§ 審査関係	11
審査員	12
審査方法と結果	12
§ 参考資料	16
歴代大賞受賞一覧(個人賞)	17
歴代受賞一覧(団体賞)	18

美術工芸品部門
受賞作品



農林水産大臣賞

[「LINE」菓子器（赤・黒）]

須藤賢一（津軽塗）

大きな丸い菓子器、直線と曲線を構成したシンプルな意匠の作品。塗り立てで艶消しの落ち着いた艶が非常に上品な佇まいを持っており、審査員の気持ちを掴んだ。なんとと言っても塗りが上手い、塗り立ての仕事は一見すると容易に見えるが実は難しく、漆液を熟知していなければ出来ない。硬化速度、粘性の知識。また埃などにも気を遣う。デザイン力、技術力とも高い秀作である。



林野庁長官賞

[風花三（漆塗チェスト）]

株式会社森繁（香川漆器）

銀と黒の市松模様のスモールチェスト。シンプルなデザインだが銀の面に縦の櫛目模様、黒い面は乾漆粉（漆の塗膜を砕いて粉状にした物）で石目調になっている。磨き上げた面との対比が心地よく、質感に対する作者の気遣いが審査員に届いたと言える。デザイン力、技術力とも高い秀作である。



家庭画報賞

[盛皿後藤存清]

渡辺漆器店（香川漆器）

香川県の変り塗り技法「後藤塗り」の丸く大きな盛器。後藤塗りを背景にオリーブの葉と実をモチーフに螺鈿と存清の技法を組み合わせた作品。モチーフにオリーブを取り入れた事や作品の色調が、日本の漆器の雰囲気とは違って面白いと審査員からの声。作者の豊かなイメージ力が光る作品に仕上がっている。



一般財団法人伝統的工芸品産業振興協会賞

[龍蒔絵香合]

株式会社うるしアートはりや（山中漆器）

伝統的な意匠の龍が蒔絵で描かれた香合。一見すると普通の香合かと思って蓋を開けると美しさにハッとさせる。作者の狙いに審査員は驚いた。極小の青貝（鮑貝の粒）が粒置きされ、しかも青に選別されたものだけが、隙間なく貼られているのだ。蒔き付けているのではなく一粒ずつ貼っているのだ。素材の美しさを活かした力作である。



一般社団法人日本百貨店協会会長賞
 [入れ子丸重 洗朱内黒塗 蓮花唐草沈金]
 株式会社輪島屋善仁 (輪島塗)

3枚のお皿が入れ子式になっていて、コンパクトに収納できる丸重。幾何学的に蓮花を図案にし、ワンポイントで蓋の中央にスッキリとまとめている。沈金の幾何学的な堅い図案に対し、内側の黒の塗り立ての艶がしっとり柔らかく、対比が美しい有作である。



全国漆業連合会会長賞
 [栃 拭漆 内黒 花はすカップ]
 梶原伸夫 (越前漆器)

花はすカップと題された5客の器。高台を高くし、茎から花が付いている様子を器に重ね、アイデアにしたのであろう。器の形が面白く票が集まったと言える。欲を言えば内側の黒の塗り立てが美しく仕上がっているのに対し、高台側面の轆轤の挽目が無い方が栃の杳目が美しく見えたと感じた。



一般社団法人日本漆工協会理事長賞
 [漆スケートデッキ「輸入道」]
 武蔵川剛嗣 (高岡漆器)

スケートボードのデッキに螺鈿で絵を描いた作品。妖怪「輸入道」とファイヤーパターンを組み合わせた図案は現代的で、日本の伝統技法と現代のスポーツ文化を組み合わせようと考えた作者のユーモアに票が集まったと言える。幅広く螺鈿の良さを伝えたいとPR欄に書いているが、伏彩色で螺鈿の色を彩色する事、薄貝もつ素材自体の色を分けて貼るなど技術的にも高い作品である。



審査員特別賞
 [漆塗りロードバイク]
 未空うるし工芸 (木曾漆器)

漆塗りロードバイク！漆を自転車に塗ったというアイデアが斬新で面白い。漆のイメージでもある朱、黒の2色にした事がシンプルで、作者のセンスを感じる作品に仕上がっている。残念だったのは、漆を塗った部分と市販のままの部分が分かり辛かった点であり、その濃淡がつけられれば、より魅力的になったと感じる。



奨励賞

[尺2白檀盛器]

山田秀樹 (越前漆器)

白檀塗りのたっぷりとした盛器。白檀塗りは金属箔や粉を蒔いた上に透漆を塗り、漆を通して金属の色を見せる技法。この作品も漆の飴色の美しさが魅力的である。欲を言えば、盛器全体で漆の色斑も偶然ではなく、意識的に行えばより魅力的になったと感じた。



奨励賞

[肉合研出蒔絵盃「鯉の瀧登り」]

前野塗工房 (輪島塗)

肉合研出蒔絵「鯉の瀧登り」と題した作品。蒔絵技法の中でも難易度が高い技法で評価された作品。厳しいようであるが技術レベルは高く、しっかりとしているので、図案の鯉の躍動感が描かれていれば、もっと上の賞になったと感じてやまない。

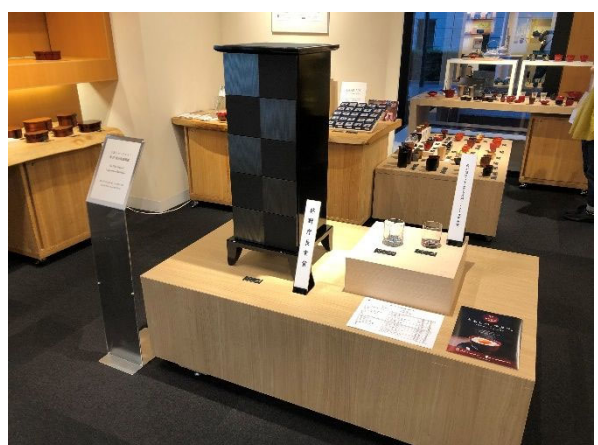


奨励賞

[丸大絵皿 (流水漂着)]

武田靖夫 (会津塗)

丸大絵皿 (流水漂着) と題し、卵殻技法で流水を描いた作品。流水の立体感を卵の貼る密度を変えグラデーションを作り表現している。非常に丁寧に貼っていて大変な時間を費やしただろう。作者の作品に対しての思いが詰まった作品に仕上がっている。欲を言えば鶏卵ではなく鶉卵にすれば、もう少しシャープな仕上がりに感じた。



産業工芸品部門
受賞作品



経済産業大臣賞

[櫛 六ツ組 信玄弁当 独楽]

有限会社中出漆器店（山中漆器）

普段見慣れたお椀のカタチ。でも組み立てるとなぜかお弁当箱になるというちょっと不思議なカラクリ。このようなユニークな作品でありながら、ひとつひとつは工芸としての高いクオリティーを保ち、長く所持することの喜びがあると感じます。今回の審査会ではダントツの1位を獲得。コロナ禍において製作もままならない中でのこのチャレンジに、将来の可能性を感じワクワクしました。



経済産業省 製造産業局長賞

[”そ”の器 罎 KAKOMU SML 藍]

守田漆器株式会社（山中漆器）

綺麗ですね。カッコいい、所有したい。色がとても美しい！審査員から素敵な言葉たちが飛び交いました。色彩学的には茶色に青を被せるって実は難しい。でも素敵に色が響き合っていて、気持ち良い色だなあ、と素直に感じます。使っていくことで木目がより見えてくるという時間軸の変化、使う喜び。軽いスタックも出来るし。これ、欲しい！



日本経済新聞社賞

[二段丸重 どら塗]

山田早紀子（高岡漆器）

銅鑼塗の中に金粉を混ぜ込み、使うほどに金粉が透けて発色してくるのだそうです。やはり漆に期待することは、長く使うこと、育てていくこと。この作品を持つことで、ゆっくりとした漆との生活が始まりそうです。使うこと、所有することの喜びを感じられそうです。



株式会社商工組合中央金庫社長賞

[キャンプボウル カラータイプ]

有限会社イシオカ工芸（津軽塗）

漆をキャンプに！持ち運び使い込むほど味が出てくる面白さ。プロダクトがサブスクリプション化している今、長く使うことの大切さをさりげなく私たちに教えてくれそうです。漆という世界からちょっと外れて、外へ持ち歩くことによって漆の可能性を広げるというアイデアも、とても魅力的なアプローチです。キャンプならではの素敵な料理が漆の器で出てきたら、もう、ドキッとするでしょうね。



公益財団法人日本デザイン振興会賞

[受け皿 (梅宴)]

山本 勝 (越前漆器)

いろいろな使い方が出来そうです。小さい砂糖菓子とか、クッキーとか。入れるものでお皿のかわいらしさが際立ちそうです。よく見ると、とても細かい模様が描かれています。こういったお皿は洗めなデザインが多いですが、この受け皿はそんなことはありません。中心部分は金、まわりはそれぞれ絶妙にモダンな色を組み合わせさせていて、楽しく華やかなイメージを創り出しています。多目的に使えるので、プレゼントにしても喜ばれそうですね。



一般財団法人生活用品振興センター理事長賞

[ロックグラス 花鳥/あられこぼし]

天野漆器株式会社 (高岡漆器)

ガラスと漆って、少し前までは密着が良くなかったそうです。今はガラスに密着する漆というのが開発され、このように、漆による非常に綺麗で面白いロックグラスが出来上がりました。技術的なチャレンジも含めて、今後の表現の可能性を大きく感じる作品です。



NPO 法人食空間コーディネート協会賞

[陶漆 六角皿 飛びカンナ]

株式会社土直漆器 (越前漆器)

この作品は、陶器の上に漆が塗ってあります。漆なので使っていくうちに明るい色に変化し、より綺麗に見えてくるそうです。よく見ると、かなり繊細な加工が施されていることに気づきます。これは単に見た目の処理ということではなく、たとえばスプーンを滑らせていった時に縁のちょっとした高さで食材がとりやすくなるとか、手に持った時のさわり心地とか。技術的なことも含めかなり高度に創られていることがわかります。使うほどになるほど、と思える工夫が随所に散りばめられています。繊細な色使いも素敵です。



日本漆器協同組合連合会理事長賞

[国産ハンノキ飯椀 各種]

株式会社龍門堂 (木曾漆器)

波椀なので炊きたてご飯でもまわりは暑くならず、また水分もこもりにくくご飯を美味しく頂けるとのこと。飯椀として、とても大事なアプローチです。伝統的な表現でありながらもモダンな見た目、波のラインがご飯の量の目安にもなる機能性。お米の重さを感じとれる飯椀の軽さ。大小あるので、アイデア次第でいろいろな使い方も出来そうです。



審査員特別賞

[半月弁当箱]

井上正晴 (川連漆器)

むかしばなしに出てきそうな、優しい月のかたち。手に持った時に、なんだかほっとした気持ちになりました。仕切りの入れ方も絶妙。見た目のデザイン処理だけでなく、ちゃんと使いやすいさも考慮されているのです。技術内容的には古風にとられそうですが、実物を見ると、なんだかちょっとした新しさを感じます。いつものお弁当。食材はそのままにお弁当箱を変えてみるだけで、気持ちが前向きになりそうです。



奨励賞

[URUSHIRU さぬき味わい竹箸]

中田漆木 (香川漆器)

どのお箸も素敵な柄ですね。このお箸、実は蒟醬、存清、彫漆、後藤塗、象谷塗と、瀬戸内海の気候を生かした香川漆器ならではの技法で創られています。ひとつひとつのお箸がとても丁寧に創られています。お箸に使う技法から、その場に会話が広がっていく。こういうストーリー、好きですね。技法を知ること、お箸をいつまでも大切に使いたくなります。



奨励賞

[小判鉢 紐 黒/緑/朱/赤/溜]

氏家漆器株式会社 (高岡漆器)

乾漆の良さは、軽くてカジュアルな使い方も出来ること。普段使いにちょうど良さそうです。重ねやすいので収納も良い。普段使うには大事なことです。色がとても綺麗で、使うことで気持ちが高揚します。



奨励賞

[皿]

加藤尚人 (川連漆器)

とてもゴージャスなお皿です。それでいて軽く、重なりもよく収納しやすい。多目的に使えることもポイントです。中心部分が黒いので、料理も映えそうです。表だけでなく、裏側もとても素敵だと審査員の方々からコメントがありました。

§ 審 查 関 係 §

【審査員】

審査員長	東京藝術大学 名誉教授 三田村有純	
部門	産業工芸品	美術工芸品
審査 部門長	東京藝術大学デザイン科 准教授 鈴木 太朗	東京藝術大学工芸科 准教授 青木 宏暉
審査員	経済産業省 製造産業局 生活製品課 企画官 塚本 裕之	林野庁 林政部 経営課 特用林産対策室長 塚田 直子
	江上料理学院 院長 江上 栄子	一般財団法人伝統的工芸品産業振興協会 代表理事 原田 元
	公益財団法人日本デザイン振興会 常務理事 村上 樹人	株式会社世界文化社 執行役員 今井 朗子
	一般財団法人生活用品振興センター 理事長 中川 繁樹	東京藝術大学工芸科 助教 今井 美幸
	NPO 法人食空間コーディネート協会 副理事長 浜 裕子	全国漆業連合会 会長 蓑輪 利一
	日本漆器協同組合連合会 理事長 土田 直	一般社団法人日本漆工協会 理事長 玉川 義隆

(敬称略・順不同)

【審査方法と結果】

各産地の予備審査を経て出品された「美術工芸品部門 36」、「産業工芸品部門 49 作品」を対象として、審査員は各部門の評価ポイントの評価などを勘案し、以下の手順で審査を実施した。

審査 部門	出品 内容	出品 条件	評価ポイント			
			市場性	デザイン性	技術力	機能性 (日常性)
			「購入する」観点での評価			
			・販売ターゲット が明確 ・価格設定が優れ ている	・見た目に美しい ・使い勝手に優れ ている	・卓越した技術 力、伝統的な技 法の採用 ・革新的な技術の 採用	・現在のライフス タイルにあっ た機能の保持 ・新たな提案
美術 工芸品	漆器	新作 少量品	○	○	◎	△
産業 工芸品	漆器 合成漆器	新作 量産品	○	○	△	◎

1. 担当部門の10作品を選出。
2. 選出した作品毎に、各評価ポイントを「非常によい」「よい」「ふつう」の3段階で評価したうえで投票。
3. 投票を集計し、総得票数の上位18作品程度を最終候補作品として、以下の手順で個人賞を決定。

～個人賞の決定手順～

産業工芸品部門	分類	美術工芸品部門
経済産業大臣賞 経済産業省製造産業局長賞	①官公庁	農林水産大臣賞 林野庁長官賞
日本経済新聞社賞 (株)商工組合中央金庫社長賞	②メディア・公共機関	家庭画報賞
(公財)日本デザイン振興会賞 (一財)生活用品振興センター理事長賞 (特非)食空間コーディネート協会賞 日本漆器協同組合連合会理事長賞	③業界団体	(一財)伝統的工芸品産業振興協会賞 (一社)日本百貨店協会会長賞 全国漆業連合会会長賞 (一社)日本漆工協会理事長賞
審査員特別賞 奨励賞	④審査会	審査員特別賞 奨励賞

- (1) 分類①の官公庁賞は、得票数上位 2 作品より各賞を決定した。
- (2) 分類②のメディア・公共機関賞は、得票数 3 番目、4 番目の作品より賞を決定した。
- (3) 分類③の業界団体賞は、得票数 10 番目程度までの残りの作品を対象に、各団体の活動内容や特徴などを考慮して作品とのマッチングを行い、各賞を決定した。
- (4) 分類④の審査会賞は、得票数 18 番目程度までの残りの作品を対象に、産地や入賞作品のバランスなどを協議したうえで、審査員特別賞 1 点、奨励賞 3 点を決定した。なお、産業工芸品部門の奨励賞決定においては、決選投票を実施した。

-美術工芸品部門(得票上位 19 作品)-

賞名	品名	出品者	産地
農林水産大臣賞	「LINE」菓子器(赤・黒)	須藤賢一	青森
林野庁長官賞	風花三(漆塗チェスト)	株森繁	香川
家庭画報賞	盛皿後藤存清	渡辺漆器店	香川
(一財)伝統的工芸品産業振興協会賞	龍蒔絵香合	株うるしアートはりや	山中
(一社)日本百貨店協会会長賞	入れ子丸重 洗朱内黒塗 蓮花唐草沈金	輪島屋善仁	輪島
全国漆業連合会会長賞	栃 拭漆 内黒 花はすカップ	梶原伸夫	越前
(一社)日本漆工協会理事長賞	漆スケートデッキ「輪 入道」	武蔵川剛嗣	高岡
審査員特別賞	漆塗りロードバイク	未空うるし工芸	木曾
奨励賞	尺 2 白檀盛器	山田秀樹	越前
奨励賞	肉合研出蒔絵盃「鯉の瀧登り」	前野塗工房	輪島
奨励賞	丸大絵皿(流水漂着)	武田靖夫	会津
-	乾漆花瓶 夕焼け	漆工房北山	香川
-	ペアフリーカップ 花蒔絵	前野塗工房	輪島

賞名	品名	出品者	産地
-	三ツ組 羽反椀 ペア	(株)土直漆器	越前
-	銚子	梶原漆器店	輪島
-	微睡みーバンビー/微睡みーくじらー	ちきりや手塚万右衛門 商店 手塚希望	木曽
-	木の葉皿揃え	助田幹夫	越前
-	丸盆 彩色キンマ 桜	文新堂漆器工業(有)	香川
-	輪島塗あすなろ網代盆	大徹八井漆器工房	輪島

-産業工芸品部門(得票上位 20 作品)

賞名	品名	出品者	産地
経済産業大臣賞	櫛 六ツ組 信玄弁当 独楽	(有)中出漆器店	山中
経済産業省製造産業局長賞	"そ"の器 罎 KAKOMU SML 藍	守田漆器(株)	山中
日本経済新聞社賞	二段丸重 どら塗	山田早紀子	高岡
(株)商工組合中央金庫社長賞	キャンプボウル カラータイプ	イシオカ工芸	青森
(公財)日本デザイン振興会賞	受け皿 (梅宴)	山本 勝	越前
(一財)生活用品振興センター理事長賞	ロックグラス 花鳥/あられこぼし	天野漆器(株)	高岡
(特非)食空間コーディネート協会賞	陶漆 六角皿 飛びカンナ	(株)土直漆器	越前
日本漆器協同組合連合会理事長賞	国産ハンノキ飯椀 各種	(株)龍門堂	木曽
審査員特別賞	半月弁当箱	井上正晴	秋田
奨励賞	URUSHIRU さぬき味わい竹箸	中田漆木	香川
奨励賞	小判鉢 紐 黒/緑/朱/赤/溜	氏家漆器(株)	高岡
奨励賞	皿	加藤尚人	秋田
-	盃 銀雲	越前漆器(株)	越前
-	カーブディッシュ 小大 茜すり 神代すり 白木塗	守田漆器(株)	山中
-	市松弥生皿 ゴールド/シルバー	越前漆器(株)	越前
-	漆・モザイクカップ 和五彩	(有)中出漆器店	山中
-	スタッキングボウル 9色	(株)川口屋漆器店	香川
-	U-box	利山	秋田
-	コンセントカバー 5種	天野漆器(株)	高岡
-	ランチョンマット ハモン	越前漆器(株)	越前

～団体賞の決定手順～

- (1) 個人得点を産地組合毎に集計した合計に、個人賞毎に設定された受賞加点を加算した総得点の上位より各賞を決定した。なお、10 作品を超える出品のある産地組合については、得票上位 10 作品までを集計の対象とした。

第 1 位[桂宮賞]	第 2 位[内閣総理大臣賞]	第 3 位[日本経済新聞社賞]
越前漆器協同組合	山中漆器連合協同組合	香川県漆器工業協同組合

産地組合別ポイント集計表

産地組合名	美術工芸品部門					産業工芸品部門					合計	受賞加点	総得点
	市場性	デザイン性	技術力	選定㊦	小計	市場性	デザイン性	機能性	選定㊦	小計			
越前漆器協同組合	27	25	21	110	183	30	33	31	130	224	407	35	442
山中漆器連合協同組合	9	14	16	60	99	32	39	38	140	249	348	60	408
香川県漆器工業協同組合	30	36	34	170	270	11	11	12	50	84	354	45	399
伝統工芸高岡漆器協同組合	11	13	10	50	84	30	35	33	140	238	322	45	367
輪島漆器商工業協同組合	24	28	29	140	221	2	2	2	10	16	237	15	252
青森県漆器協同組合連合会	11	15	16	60	102	8	7	9	30	54	156	50	206
木曾漆器工業協同組合	11	14	13	60	98	13	12	13	50	88	186	18	204
秋田県漆器工業協同組合	-	-	-	-	-	24	25	27	100	176	176	13	189
会津漆器協同組合	4	6	6	30	46	0	0	0	0	0	46	5	51
紀州漆器協同組合	2	2	1	10	15	3	2	2	10	17	32	0	32

以上

§ 参 考 資 料 §

(歷代受賞一覽)

歴代(直近 18 年)大賞受賞作品一覧

-美術工芸品部門 (農林水産大臣賞)-

年度(回)	品名	生産者	産地組合
平成 17 年度(40 回)	波紋大皿 A・B	遠田漆器店	秋田県漆器工業協同組合
平成 18 年度(41 回)	キャビネット西都 28 黒刷毛目漆塗扉朱刷毛目	㈱森繁	香川県漆器工業協同組合
平成 19 年度(42 回)	乾漆盛器	内島 正雄	伝統工芸高岡漆器協同組合
平成 20 年度(43 回)	十二角 三段重	吉田漆器工房	輪島漆器商工業協同組合
平成 21 年度(44 回)	乾漆輪花 盛器	内島 正雄	伝統工芸高岡漆器協同組合
平成 22 年度(45 回)	菊型オードブルセット	滝 健一	秋田県漆器工業協同組合
平成 23 年度(46 回)	松フチ麻布張り丸テーブル	小橋 敬一	越前漆器協同組合
平成 24 年度(47 回)	帯付小判重	津田 哲司	輪島漆器商工業協同組合
平成 25 年度(48 回)	栗塗平卓	小橋 敬一	越前漆器協同組合
平成 26 年度(49 回)	乾漆盛器 “越の海”	前田 利栄	越前漆器協同組合
平成 27 年度(50 回)	大盃 奇跡草蒔絵	山崎 夢舟	山中漆器連合協同組合
平成 28 年度(51 回)	乾漆皿「華麗」	山崎 夢舟	山中漆器連合協同組合
平成 29 年度(52 回)	花塗金彩盤	寿次郎	秋田県漆器工業協同組合
平成 30 年度(53 回)	オードブル容器	岡山至鳳堂	輪島漆器商工業協同組合
令和元年度(54 回)	盛皿グリーン(魚)	渡辺漆器店	香川県漆器工業協同組合
令和 2 年度(55 回)	青海光 菓子鉢	采色塗 なか門	輪島漆器商工業協同組合
令和 3 年度(56 回)	大皿(クローバー)	渡辺漆器店	香川県漆器工業協同組合
令和 4 年度(57 回)	「LINE」菓子器(赤・黒)	須藤 賢一	青森県漆器協同組合連合会

-産業工芸品部門 (経済産業大臣賞)-

年度(回)	品名	生産者	産地組合
平成 17 年度(40 回)	三つ足盛器	清水 正義	越前漆器協同組合
平成 18 年度(41 回)	八角形 二段重 平台付	加藤漆器店	輪島漆器商工業協同組合
平成 19 年度(42 回)	小箱波シリーズ(櫛目研出し)	畑 勝日佐	伝統工芸高岡漆器協同組合
平成 20 年度(43 回)	銀彩 酒器セット	摂津 広紀	秋田県漆器工業協同組合
平成 21 年度(44 回)	飾り棚「紫苑 20」彩色塗分 春の詩の囀	㈱森繁	香川県漆器工業協同組合
平成 22 年度(45 回)	テーブル「麗風」	森 康一	香川県漆器工業協同組合
平成 23 年度(46 回)	KOTON black V, (Y), (U)	我戸 正幸	山中漆器連合協同組合
平成 24 年度(47 回)	テーブル折脚 風紋	森 康一	香川県漆器工業協同組合
平成 25 年度(48 回)	二段重箱	白川 勝義	青森県漆器協同組合連合会
平成 26 年度(49 回)	飾皿(皿立付) 十二支 螺鈿・蒔絵	天野漆器㈱	伝統工芸高岡漆器協同組合
平成 27 年度(50 回)	カップ・コースター付 外木地呂内側銀地	山田 秀樹	越前漆器協同組合
平成 28 年度(51 回)	会席膳 五彩	畑 勝日佐	伝統工芸高岡漆器協同組合
平成 29 年度(52 回)	引き出し(大・小)と小箱	畑 勝日佐	伝統工芸高岡漆器協同組合
平成 30 年度(53 回)	重箱(取り皿付)	秋元 勝彦	青森県漆器協同組合連合会
令和元年度(54 回)	JUBACO	山口 怜示	越前漆器協同組合
令和 2 年度(55 回)	八角盆(彩) 3 点セット	畑 勝日佐	伝統工芸高岡漆器協同組合
令和 3 年度(56 回)	カフェボウル カラータイプ	㈱イシオカ工芸	青森県漆器協同組合連合会
令和 4 年度(57 回)	櫛 六ツ組 信玄弁当 独楽	㈱中出漆器店	山中漆器連合協同組合

歴代受賞一覧(団体賞)

回	年	桂宮賞	内閣総理大臣賞	日本経済新聞社賞	三越賞	特別奨励賞
1	1967	会津漆器協同組合連合会	青森県漆器協同組合連合会	東京都漆器商工業協同組合		
2	1968	東京都漆器商工業協同組合	香川県漆器工業協同組合	木曾漆器工業協同組合		
3	1969	東京都漆器商工業協同組合	越前漆器協同組合	秋田県漆器工業協同組合		
4	1970	青森県漆器協同組合連合会	秋田県漆器工業協同組合	越前漆器協同組合		
5	1971	越前漆器協同組合	香川県漆器工業協同組合	会津漆器協同組合連合会		
6	1972	木曾漆器工業協同組合	神奈川県漆器連合会	富山県漆器商工業協同組合		
7	1973	富山県漆器商工業協同組合	富山県漆器商工業協同組合	青森県漆器協同組合連合会		
8	1974	石川県漆器連合会	青森県漆器協同組合連合会	東京都漆器商工業協同組合	輪島漆器商工業協同組合	
9	1975	長野県木曾漆器工業協同組合	会津漆器協同組合連合会	秋田県漆器工業協同組合	越前漆器協同組合	
10	1976	青森県漆器協同組合連合会	東京都漆器商工業協同組合	木曾漆器工業協同組合	木曾漆器工業協同組合	
11	1977	木曾漆器工業協同組合	香川県漆器工業協同組合	青森県漆器協同組合連合会	会津漆器協同組合連合会	富山県漆器商工業協同組合 会津漆器協同組合連合会 越前漆器協同組合
12	1978	青森県漆器協同組合連合会	会津漆器協同組合連合会	木曾漆器工業協同組合	会津漆器協同組合連合会	山中漆器連合協同組合 富山県漆器商工業協同組合 越前漆器協同組合
13	1979	富山県漆器商工業協同組合	会津漆器協同組合連合会	青森県漆器協同組合連合会	京都漆器工芸協同組合	木曾漆器工業協同組合 香川県漆器工業協同組合 山中漆器連合協同組合
14	1980	青森県漆器協同組合連合会	山中漆器連合協同組合	富山県漆器商工業協同組合		会津漆器協同組合連合会 木曾漆器工業協同組合 越前漆器協同組合
15	1981	青森県漆器協同組合連合会	木曾漆器工業協同組合	秋田県漆器工業協同組合	会津漆器協同組合連合会	伝統工芸高岡漆器協同組合 越前漆器協同組合 山中漆器連合協同組合
16	1982	越前漆器協同組合	伝統工芸高岡漆器協同組合	会津漆器協同組合連合会	輪島漆器商工業協同組合	青森県漆器協同組合連合会 香川県漆器工業協同組合 山中漆器連合協同組合
17	1983	青森県漆器協同組合連合会	伝統工芸高岡漆器協同組合	会津漆器協同組合連合会	秋田県漆器工業協同組合	香川県漆器工業協同組合 山中漆器連合協同組合 越前漆器協同組合
18	1984	木曾漆器工業協同組合	青森県漆器協同組合連合会	会津漆器協同組合連合会	伝統工芸高岡漆器協同組合	越前漆器協同組合 輪島漆器商工業協同組合 香川県漆器工業協同組合
19	1985	伝統工芸高岡漆器協同組合	香川県漆器工業協同組合	越前漆器協同組合	輪島漆器商工業協同組合	会津漆器協同組合連合会 青森県漆器協同組合連合会 木曾漆器工業協同組合
20	1986	伝統工芸高岡漆器協同組合	輪島漆器商工業協同組合	青森県漆器協同組合連合会	山中漆器連合協同組合	会津漆器協同組合連合会 越前漆器協同組合 東京都漆器商工業協同組合
21	1987	会津漆器協同組合連合会	木曾漆器工業協同組合	伝統工芸高岡漆器協同組合	香川県漆器工業協同組合	秋田県漆器工業協同組合 越前漆器協同組合 山中漆器連合協同組合
22	1988	会津漆器協同組合連合会	青森県漆器協同組合連合会	東京都漆器商工業協同組合	香川県漆器工業協同組合	秋田県漆器工業協同組合
23	1989	秋田県漆器工業協同組合	青森県漆器協同組合連合会	香川県漆器工業協同組合	会津漆器協同組合連合会	越前漆器協同組合
24	1990	越前漆器協同組合	青森県漆器協同組合連合会	香川県漆器工業協同組合	会津漆器協同組合連合会	木曾漆器工業協同組合
25	1991	青森県漆器協同組合連合会	越前漆器協同組合	会津漆器協同組合連合会	山中漆器連合協同組合	秋田県漆器工業協同組合
26	1992	青森県漆器協同組合連合会	木曾漆器工業協同組合	越前漆器協同組合	会津漆器協同組合連合会	山中漆器連合協同組合
27	1993	山中漆器連合協同組合	伝統工芸高岡漆器協同組合	会津漆器協同組合連合会	秋田県漆器協同組合	香川県漆器工業協同組合
28	1994	香川県漆器工業協同組合	輪島漆器商工業協同組合	青森県漆器協同組合連合会	山中漆器連合協同組合	伝統工芸高岡漆器協同組合
29	1995	山中漆器連合協同組合	越前漆器協同組合	香川県漆器工業協同組合		秋田県漆器工業協同組合
30	1996	越前漆器協同組合	輪島漆器商工業協同組合	香川県漆器工業協同組合		青森県漆器協同組合連合会
31	1997	伝統工芸高岡漆器協同組合	木曾漆器工業協同組合	山中漆器連合協同組合		越前漆器協同組合
32	1998	輪島漆器商工業協同組合	秋田県漆器工業協同組合	伝統工芸高岡漆器協同組合		
33	1999	香川県漆器工業協同組合	山中漆器連合協同組合	青森県漆器協同組合連合会		
34	2000	越前漆器協同組合	秋田県漆器工業協同組合	木曾漆器工業協同組合		
35	2001	伝統工芸高岡漆器協同組合	輪島漆器商工業協同組合	香川県漆器工業協同組合		
36	2002	越前漆器協同組合	山中漆器連合協同組合	伝統工芸高岡漆器協同組合		
37	2003	会津漆器協同組合	輪島漆器商工業協同組合	越前漆器協同組合		
38	2003	伝統工芸高岡漆器協同組合	越前漆器協同組合	木曾漆器工業協同組合		
39	2004	輪島漆器商工業協同組合	越前漆器協同組合	鳴子漆器協同組合		
40	2005	越前漆器協同組合	秋田県漆器工業協同組合	輪島漆器商工業協同組合		
41	2006	輪島漆器商工業協同組合	香川県漆器工業協同組合	越前漆器協同組合		
42	2007	伝統工芸高岡漆器協同組合	越前漆器協同組合	山中漆器連合協同組合		
43	2008	輪島漆器商工業協同組合	越前漆器協同組合	秋田県漆器工業協同組合		
44	2009	香川県漆器工業協同組合	輪島漆器商工業協同組合	伝統工芸高岡漆器協同組合		
45	2010	秋田県漆器工業協同組合	香川県漆器工業協同組合	越前漆器協同組合		
46	2011	越前漆器協同組合	伝統工芸高岡漆器協同組合	山中漆器連合協同組合		
47	2012	越前漆器協同組合	香川県漆器工業協同組合	輪島漆器商工業協同組合		
48	2013	越前漆器協同組合	輪島漆器商工業協同組合	香川県漆器工業協同組合		
49	2014	-	越前漆器協同組合	香川県漆器工業協同組合		
50	2015	越前漆器協同組合	山中漆器連合協同組合	輪島漆器商工業協同組合		
51	2016	山中漆器連合協同組合	香川県漆器工業協同組合	越前漆器協同組合		
52	2017	越前漆器協同組合	香川県漆器工業協同組合	山中漆器連合協同組合		
53	2018	越前漆器協同組合	輪島漆器商工業協同組合	木曾漆器工業協同組合		
54	2019	越前漆器協同組合	香川県漆器工業協同組合	輪島漆器商工業協同組合		
55	2020	輪島漆器商工業協同組合	伝統工芸高岡漆器協同組合	越前漆器協同組合		
56	2021	越前漆器協同組合	香川県漆器工業協同組合	輪島漆器商工業協同組合		
57	2022	越前漆器協同組合	山中漆器連合協同組合	香川県漆器工業協同組合		

本歴代入賞一覧は「全国漆器展」に名称が変更になってからの一
覧であり、それ以前の情報については事務局では管理していない

2003年は2月開催から秋(9,10月)開催への切替のため、同年
度に2度の開催

※桂宮賞の名称については以下の通り

・第21回までは高松宮賞

・第22回は三笠宮賞

※第1～2回の高松宮賞・内閣総理大臣賞・日本経済新聞賞の名
称については以下の通り

・高松宮杯

・内閣総理大臣杯

・日本経済新聞社盾

2014年度(第49回展)の桂宮賞の交付について

2014年6月8日に桂宮宣仁親王殿下が薨去されたため、当該年
度の交付申請を見送る

第 57 回「全国漆器展」審査講評

令和 4 年 9 月 28 日制作

令和 4 年 9 月 30 日改訂

制 作 日本漆器協同組合連合会 事務局

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町二丁目 15 番 2 号 松島ビル 4F

一般財団法人生活用品振興センター内

TEL 03-3639-8882 FAX 03-3639-8880 E-mail info@shikki.or.jp

URL <https://www.shikki.or.jp/>

本資料を引用・転載する場合は、制作宛にご一報ください。

なお、日本漆器協同組合連合会会員においてはこの限りではありません。